

真鶴町立遠藤貝類博物館

いま起こっている海の課題の教材化と教員研修から広げる学び

実施期間：2024年7月2日（火）～2025年3月19日（水）



【事業の内容・目的】

- 真鶴町立遠藤貝類博物館では、2006年から真鶴町及び湯河原町の学校や真鶴半島三ツ石海岸に遠足等で訪れる学校等に対し海の自然観察指導を行う「海の学校」事業を実施し、学校での海洋学習の機会を提供しています。
- 本サポートを活用し、「海の学校」事業の機能拡充を行うことで博物館が提供する「海の学び」の更なる多様化と充実化を図ることを目的として以下の活動を実施しました。
- 出前授業の実施：海の学校事業と併せ事前事後授業を行うことで学習効果の向上を図りました。
- 海の学びの機能強化：地域の海のリアルタイムな情報を海の学校での学習に活用するため、真鶴の海の生物に関する画像・動画データを収集しました。
- 「海の学校」利用促進：海の学校の利用促進を目的に活動内容をまとめたチラシを作成しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

活動の様子

1. 海の学校

【開催日時】2024年7月2日（火）～2025年3月19日（水）

【開催場所】真鶴町立遠藤貝類博物館、三ツ石海岸他

【参加者数】501人

【活動内容・目的】

- 学校・教育団体を対象に、磯の生物観察、プランクトン観察等の体験学習を通して海の生態系、生物多様性、海の環境問題等について学ぶ事業です。
- 博物館内見学を実施し、自然体験で得た磯での学習と併せより深い海の学びの浸透を図りました。
- 生物の探し方や環境を壊さないための磯でルール、安全に活動を実施するための注意点について最初に説明を行い、安全に楽しみながら学べる機会の創出に努めました。



「海の学校」では、真鶴半島の豊かな海をフィールドに自然体験学習を実施しています。この日は真鶴町教職員初任者研修として小中学校の先生を対象に、真鶴の自然を活かした授業や海の学校事業の概要を説明し、磯の生物観察プログラムを実施しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

2. 出前授業の実施

【開催日時】 2024 年9月 10 日（火）～2025 年2月 25 日（火）

【開催場所】 真鶴町内、近隣地域の小中学校

【参加者数】 230 人

【活動内容・目的】

- 海の学校事業の学習効果の向上を目的として出前授業を実施しました。野外学習の前と後に授業を実施し、事前に児童生徒と内容や目的について共有すると共に、事後に振り返りを行うことで海の学校で得た知識や経験の定着を図りました。
- 各学校のニーズに合わせ、海の環境問題や地域社会とのつながりなど発展的な内容で授業を実施しました。



2月25日の実施した出前授業では、町内の中学3年生を対象に、真鶴の海の価値と課題について講義後を行いました。その後、海を活かしたまちづくりのアイデアをチームごとにまとめて発表してもらいました。

真鶴町では、小学校から海の学校事業を通して地域の海について学んでおり、その集大成として本講義を行いました。海を活かしたまちづくりについて、画期的なアイデアからユニークなものまで活発な議論が見られ、充実した講義となりました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

3. 海の学校機能強化

【開催日時】2024年7月1日（月）～ 2025年3月19日（水）

【開催場所】真鶴町立遠藤貝類博物館

【活動内容・目的】

- 博物館内のパネル展示及び海の学校事業の内容に即した博物館内ワークシートの新規追加により、博物館での海の学びの充実化を図りました。
- 真鶴半島沿岸の生物等の画像データの収集を行い、館内パネルや海の学校の教材として活用しました。
- 野外での体験学習に加え、真鶴半島沿岸のリアルタイムな環境変化を教材として取り入れることで海の学校の学習効果向上を図りました。



海の学校における学びの充実化を目的として、真鶴半島沿岸の海洋生物のデータ収集を行い、館内パネルを作成しました。今年度は、近年の海水温上昇等の影響で増加傾向にあるサンゴに注目しパネルを作成しました。海の学校の体験学習とセットで実施する館内見学の際に、身近な海の環境変化や課題を考える学習に活用できるような内容となっています。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

4. 海の学校利用促進

【開催日時】2024年7月1日（月）～ 2025年3月19日（水）

【開催場所】真鶴町立遠藤貝類博物館

【活動内容・目的】

- 海の学校事業の利用促進を目的として広報用チラシを作成しました。
- チラシを用いて広報を行い事業の継続的な利用を促すと共に、新たな海の学校利用を増やし、これまで以上に広い範囲に対し海の学びの提供を行える体制を整えました。



これまで継続して海の学校事業を利用いただいている学校団体が多くある一方で、先生の異動等の理由で利用が途切れてしまうことや、活動自体の知名度が限定的であることが課題でした。そこで、新たに学校・教育団体向け案内チラシを作成し各地域の教育員会や学校施設等に配布することで、海の学校の利用促進を図りました。

【事業全体のまとめ】

事業全体として、短期間ではあったが700名以上の利用者に対し「海の学び」を提供することができました。今年度の特筆すべき点としては、真鶴半島沿岸のリアルタイムな海の環境変化を捉え、海の学校の教材へ活用できたことです。真鶴半島のサンゴに関する調査から得られた画像・動画は、町内外の多くの利用者から驚きの声上がり、インパクトのある教材として活用することができました。また、調査から得られたデータを用い真鶴のサンゴについて学ぶことのできるパネルを作成し展示すると共に、新たな館内用ワークシートを作成することで、博物館内における学習の質を向上させることができました。本事業を通して町内研究機関、NPO法人、漁業協同組合、ダイビング事業者等と協力して活動を進めることができ、結果として博学連携の枠を超えた「海の学び」を提供することができました。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 横浜国立大学臨海環境センター	真鶴半島沿岸の海洋調査
2. 真鶴町漁業協同組合	真鶴半島沿岸の海洋調査
3. 真鶴町教育委員会	海の学校実施に係る補助等
4. 岩ダイビングセンター	真鶴半島沿岸の海洋調査
5. だいびんぐしょっぶ海家	真鶴半島沿岸の海洋調査

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 遠藤貝類博物館 Instagram	2024 年 10 月 26 日掲載 2024 年 11 月 5 日掲載
2. ディスカバーブルーInstagram	2024 年 8 月 28 日掲載 2024 年 9 月 4 日掲載 2024 年 11 月 6 日掲載

